

令和5年度学校経営計画書

学校名 三次市立布野中学校

校長名 吉浪 徳香

I 学校の状況

学級数	4	児童・生徒数	21	教職員数	13
メールアドレス	funo-j@school.miyoshi.hiroshima.jp				
ホームページアドレス	http://www.school.miyoshi.hiroshima.jp/junior/funo-jp/				

II 学校教育目標

「自信と安心」

自らとふるさとに誇りを持ち、仲間とともに、夢や志に向けて主体的に活動する生徒の育成

[めざす生徒像]

- ① 夢や目標の実現に向けて努力・挑戦する生徒（学力、意欲）
- ② 仲間と協働できる生徒（社会性）
- ③ 自ら学び、自ら考え、主体的に判断して行動できる生徒（主体性）
- ④ ふるさとを誇りに思い、社会に貢献する生徒（貢献）

[育成すべき資質・能力]

- ① 生きて働く知識と技能
- ② 調整力
- ③ 主体性
- ④ 自らへの自信

III 使命・存在意義（ミッション）

- コミュニティ・スクールとして、学校・地域・家庭が協働して、生徒を育む。
- 小規模校のよさを活かし、自ら未来を切り拓く「知」「徳」「体」のバランスのとれた生徒を育てる。
- 故郷を愛し、社会に貢献する生徒を育てる。
- 探究的な学習の在り方に関する研究を推進する。
県指定事業：探究的な学習の在り方に関する研究推進地域事業（布野中学校区）

[めざす学校像]

「信頼」される学校

- ① 安心・安全な学校（自他ともに安心して、楽しく生活できる）
- ② 確かな学力を身に付けさせる学校（学力の向上）
- ③ 夢をかなえる学校（自己の成長やよさが実感でき、夢と自信が育つ）
- ④ 美しい学校（環境、礼節、一生懸命が美しい）
- ⑤ 社会に貢献する学校（地域と連携して地域の活性化に貢献できる）

IV 重点事項（ミッションを果たすために）

- コミュニティ・スクールとして学校・地域・家庭が共通の目的で教育活動を行う。
- 危機管理を徹底し、安心・安全な学校づくりを行う。
- 基礎・基本の確実な習得、思考力・判断力・表現力の育成を通して、生きて働く知識と技能、調整力、主体性、自らへの自信の向上を図る。
- 何事にも積極的に挑戦させ、生徒に達成感や自己存在感を持たせ、「自己肯定感」を高める。
- 地域資源を活用した学習成果に、磨きをかけ、地域に還元・発信することを通して、ふるさとへの愛着を高め、社会に貢献できる生徒を育成する。
- 基礎体力の向上を図るとともに、礼儀正しく規律ある行動できる生徒を育てる。

- 小中一貫教育・中中連携・地域連携を充実させ、教育効果を高める。
- 布野中学校区で、探究的な学習の在り方についての研究を推進する。

V 中心価値・行動規範

[めざす教職員像]

- ① 高い倫理観と豊かな人間性を持っている。
- ② 教育的な愛情と使命感をもっている。
- ③ 確かな授業力を身に付けている。
- ④ 専門性を発揮し、連携・協働して組織的に職務を遂行できる。

[行動規範]

- 生徒は私たちの姿を見て育つことを自覚し、教職員としての使命を果たすために自らの人間性と専門性を高める努力を続けます。
 - ① 私たちは、子どもたちを守り、育てます。
 - ② 私たちは、授業力を高め、子どもたちの学力を向上させます。
 - ③ 私たちは、子ども・保護者・地域と信頼関係を築きながら子どもを育てます。

VI 現状分析

外部環境	<p>O (支援的要因)</p> <p>【地域】 豊かな地域資源 (文化, 自然, 人, もの, こと) コミュニティ・スクールによる学校への協力支援体制 三世代家族で育った子</p> <p>【行政 (国, 県, 市)】 町内公共機関の協力支援体制 市の教育予算配置 (タブレット, 電子黒板等)</p>	<p>S (強み)</p> <p>【学校】 地域資源の活用, 還元, 達成感 小中連携における協力体制 各種検定コンクールへの支援体制 職員のチームワーク</p> <p>【生徒】 優しい生徒 自己肯定感が向上 校風として挑戦する姿勢 気持ちのよい挨拶</p> <p>【保護者】 学校教育への関心度の高さ 会計処理が的確</p>	内部環境	<p>支援的要因と強みを生かした活動・取組</p> <p>コミュニティ・スクールとして学校・地域・家庭が協働し、生徒を育成 地域資源を活用した学習成果の還元・発信 ⇒自己有用感の醸成と地域に価値ある学校づくり 個々人の特性に応じた教育の充実 資格取得・各種コンクール等への積極的な挑戦</p>
	<p>T (阻害的要因)</p> <p>【地域】 人口減少, 少子高齢化</p> <p>【市教委・県教委・国】 地方交付税の激減 交通の便が悪い 施設老朽化に対し改善困難</p> <p>【社会情勢】 新型コロナウイルスの蔓延</p>	<p>W (弱み)</p> <p>【学校】 生徒数の減少, 施設の老朽化 コロナ禍による活動の制限 業務の能率化</p> <p>【生徒】 人間関係の固定化 コミュニケーション能力不足 課題・授業準備ができない生徒 不登校傾向の生徒</p> <p>【保護者】 個に応じた教育へのさらなる期待</p>		<p>育成すべき資質・能力に係る評価指標の明確化 ⇒ 成長の実感</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生きて働く知識と技能 ・調整力 ・主体性 ・自らへの自信 <p>ICTの有効活用 個別最適な学びの推進</p> <p>弱みを克服し、阻害的要因を回避する解決策</p>

重点課題

- コミュニティ・スクールとして学校・地域・家庭が共通の目的で教育活動
- 危機管理の徹底, 安心・安全な学校づくり
- 基礎・基本の確実な習得, 思考力・判断力・表現力の育成を通して, 生きて働く知識と技能, 調整力, 主体性, 自らへの自信の向上
- 生徒の達成感と自己存在感等による「自己肯定感」の醸成
- 地域資源の活用, 還元を通じた, ふるさとへの愛着と社会貢献できる生徒の育成

- 基礎体力の向上と、礼儀正しく規律ある行動のできる生徒の育成
- 小中一貫教育・中中連携・地域連携の充実による、教育効果の向上
- 探究的な学習の在り方についての研究の推進

VII 中期経営目標及び短期経営目標

	中期経営目標	短期経営目標（達成目標）	具体的な取組・方策
確かな学力	○基礎・基本の学力の確実な習得，思考力・判断力・表現力の向上を図る。	○各種学力検査で，国または県の平均を上回る。	○研究授業を定期的実施し，授業力の向上を図る。 ○つけたい力が実感できるよう，めざす資質・能力の指標を明確にする。 ○学力検査の結果を分析し，日々の授業改善に努める。 ○パフォーマンス課題を設定するなど，各教科で1項目以上，挑戦的に表現する場を設定する
		○個別最適な学びの充実を図る。	○生徒一人ひとりの学習状況を把握し，個に応じた指導を行う。 ○支援の必要な生徒の個別の指導計画を作成し，有効な指導方法を授業研修等で共有する。 ○ICT機器を活用し，不登校生徒や低学力の生徒等に対して，個に応じた指導を行う。
		○基本的学習習慣を定着させる。 ・学習習慣の定着 ・目的をもって自学習に取り組む。 ・読書習慣の定着	○「学習の手引き」を全教科作成し，学習の仕方を指導する。 ○学習の目的を立てることと学習を振り返ることを意識させ，自学ノートに取組ませる。 ○自学ノートを定期的に評価し，掲示する。 ○毎月，読書冊数を点検し，必要に応じて呼びかけを行う。
豊かな心	○主体的な生徒会活動を推進し，自・他に誇れる生徒を育てる。	○執行部がリーダーシップを発揮し，主体的な行事の推進と委員会活動の充実を図る。	○専門委員会，執行委員会の定例化による生徒会活動の活性化を行う。 ○全生徒が楽しいと思える生徒会行事づくりを行う。（生徒会新入生歓迎行事，3年生を送る会等） ○執行部，委員会を中心とした生徒主体の学校行事の充実を図る。（小中合同運動会，文化祭等）
		○3つの行動規範「時を守り，場を清め，礼を正す」生徒の育成。	○代議員会を中心とした挨拶運動により，先行挨拶ができるよう取り組む。 ○生活委員会を中心とした，環境整備や身だしなみを整える活動を行う。 ○授業評価をもとに午後のHRで振り返りを行うことで，授業改善につなげる。
健やかな体	○基礎体力を向上させ，活力ある生徒を育てる。	○基本的な生活習慣が身についている。 ・朝ごはんの定着	○栄養士と連携した食育指導を年1回以上実施し，生徒の意識を高める。 ○文化委員会の給食放送を通して，食への理解を高める。
		○部活動や各種体力づくりを充実させる。	○体力テストの結果をもとに，各運動部で弱点を克服するプログラムを作成，実行することで体力向上に努める。
信頼される学校	○学んでよかったと思える学校をつくる。	○生徒が授業や学校生活に満足している。	○生徒アンケートを年2回実施し，取組に生かす。
		○保護者が本校の教育に満足している。 ・安心と満足	○HPを週1回以上，学級便りを月1回以上出す。 ○保護者アンケートを年2回実施し，取組の結果等を保護者に返す。